

**『学校等事件事故の調査・検証委員会
についてのアンケート』**

NPO 法人 ジェントルハートプロジェクト

**集計・分析：小林麻衣子
(筑波大学人間総合科学研究科)**

【調査概要】

目的

1. 保育施設を含めた学校等の事件事故、自殺等の調査・検証委員会の実態を明らかにする。
2. 各調査・検証において、被災者や遺族はどのように位置づけられているのか、意見や要望はどの程度反映されているのかの現状を把握し、「当事者や親の知る権利」実現につなげていく。

方法

調査は2014年6月～2015年6月にかけて実施。

法人のネットワークを通じて、事件事故、自殺事案の組織外部の委員がかかわった調査・検証委員会の調査委員を務めた人物、及び被災者を抽出。

対象者に、自記式質問紙を手渡し、もしくは送付した。質問紙は記入後、郵送にて回収された。なお、同一事案で複数の被災者がいるものは、複数枚配布。

被災者側からはのべ23件（配布数35件）、検証委員からはのべ12件（配布数25件）の回答を得た¹。

集計・分析

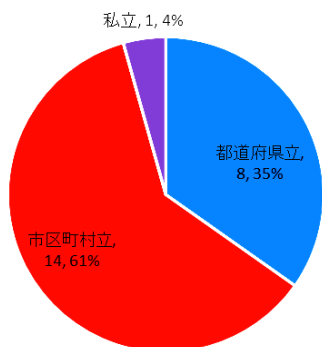
アンケートの集計と分析は、筑波大学人間総合科学研究科の小林麻衣子氏に依頼した。

¹ 同一事案で複数の委員会が設置されたものや、人権救済申し立てによる法務局や弁護士会の調査を含む。

【被災者側の結果】 N=23

Q1. 事件事故当時、被災者が所属していた学校等について

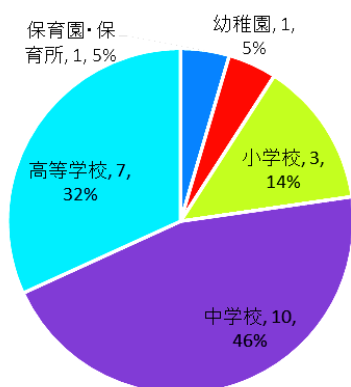
1-1. 管理責任者



1-2. 当該事件事故が発生した学校の所在地（都道府県名）

回収件数が少なく、事案が特定されるおそれがあるため、省略。

1-3. 学校等の種別 不明= 1



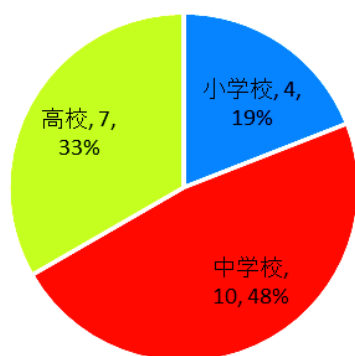
Q2. 被災の時期、被災者の詳細など

2-1. 主な被災時期 平均 2010年7月

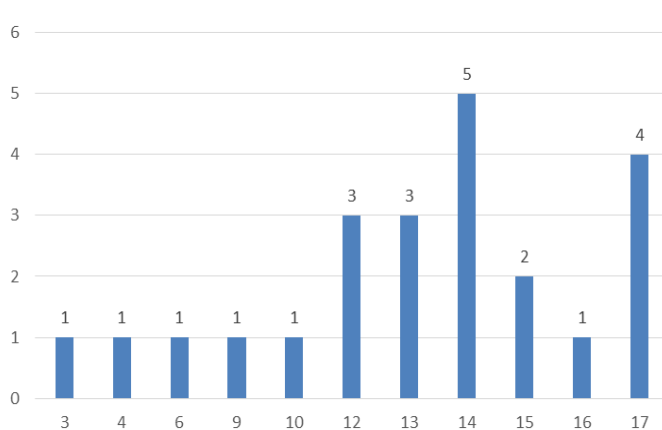
年	度数	%	月	度数	%
1998	1	4.3	3	2	8.7
1999	1	4.3	4	1	4.3
2005	2	8.7	5	1	4.3
2009	1	4.3	6	3	13.0
2010	2	8.7	7	7	30.4
2011	6	26.1	8	2	8.7
2012	7	30.4	9	4	17.4
2013	1	4.3	10	2	8.7
2014	2	8.7	12	1	4.3
合計	23	100.0	合計	23	100.0

2-2. 学年・年齢・性別

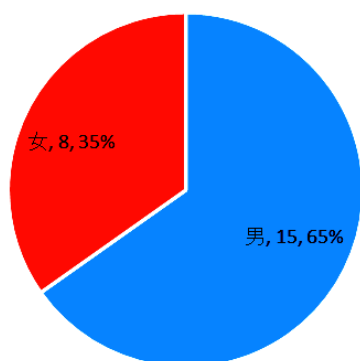
学校別 不明=2



年齢 平均 12.7歳 (range: 3~17歳)

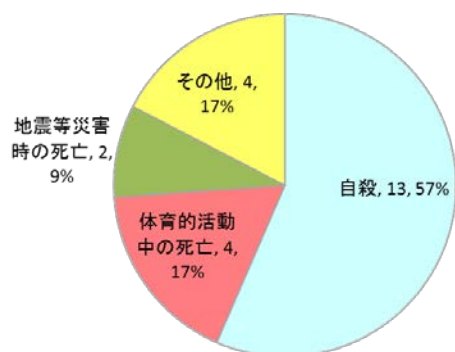


性別

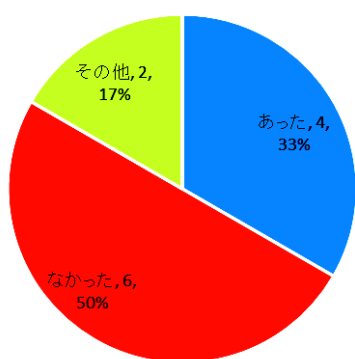


Q3. 調査・検証の対象になった被災状況について

3-1. 被災状況



3-2. 自殺、自殺未遂の場合、遺書に類するものの存在 不明=1



遺書等があった場合、自殺(未遂)の原因について書いてあったか。

具体的に書いてあった 2 (50%) 示唆する内容が書いてあった 2 (50%)



3-4. 遺書等に原因として書いてあった内容（複数回答）

	応答数	
	度数	%
いじめ	3	27.3%
友人関係の悩み	3	27.3%
家族のこと	2	18.2%
成績のこと	2	18.2%
その他	1	9.1%
合計	11	100.0%

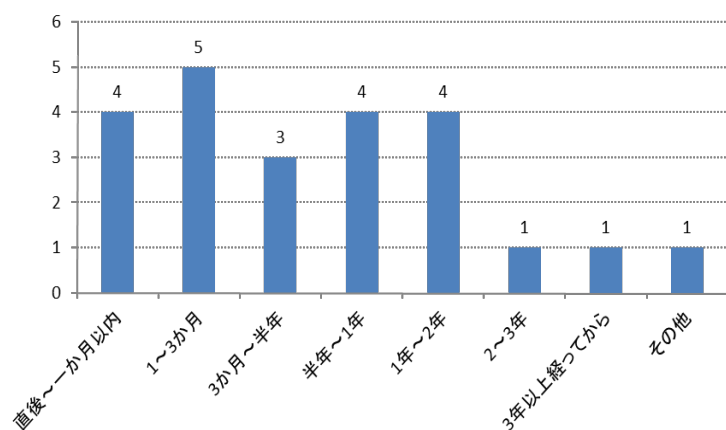
Q4. 調査・検証委員会の設置について

4-1. 設置された委員会の名称（報告書などに書いてある名称） 省略

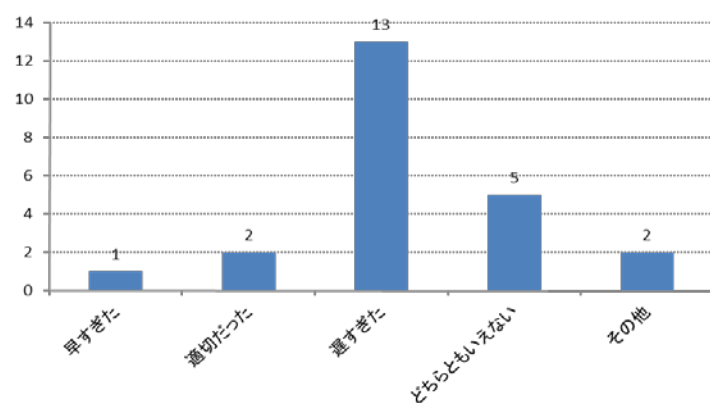
4-2. 設置時期

平均 2010年（幅：1998年～2014年）

4-3. 被災からの設置（調査開始）時期



4-4. 設置（調査開始）時期について、どう思うか。

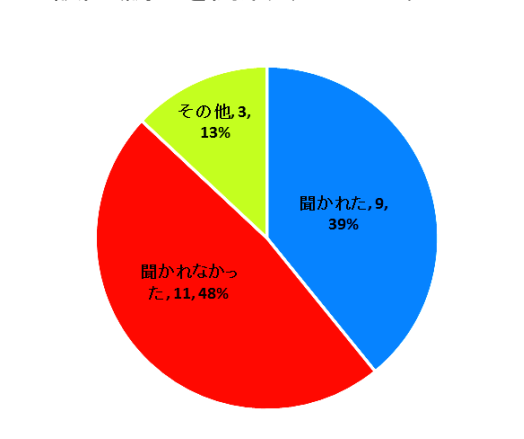


4-5. そう思う理由（自由記述） 別紙

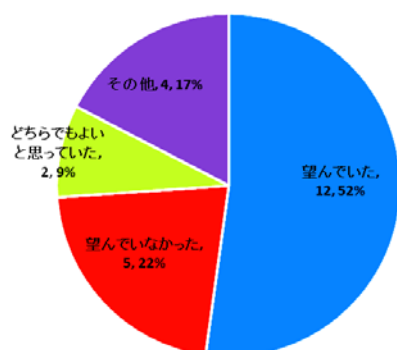
4-6. 当該調査・検証は誰の要望によるものか（複数回答）

	応答数	
	度数	%
被災者側	11	34.4%
学校・教育委員会	8	25.0%
自治体の長	4	12.5%
学校等の設置者	3	9.4%
条例等で決まっていたから	3	9.4%
その他	3	9.4%
合計	32	100.0%

4-7. 設置(調査を開始)するかどうかについて、意見や要望を聞かれたか。



4-8. 調査・検証委員会の設置を望んでいたか。



4-9. その理由（自由記述） 別紙

Q5. 委員会の設置主体と運営主体について

5-1. 設置主体

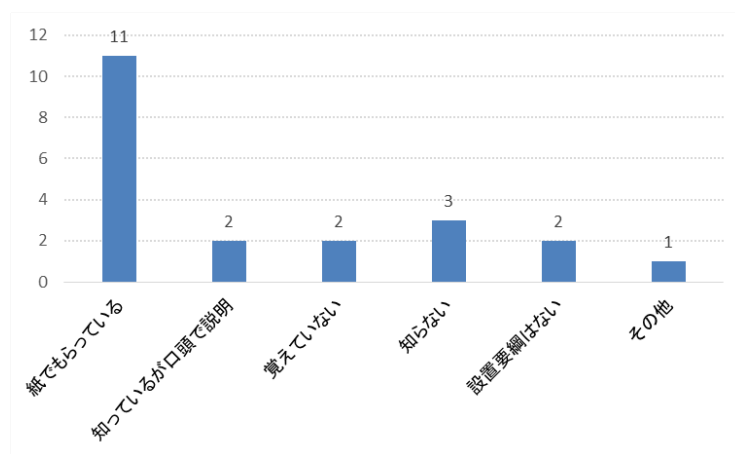
	度数	%
市区町村教育委員会	9	39.1
市区町村	4	17.4
都道府県教育委員会	3	13.0
都道府県	2	8.7
弁護士会	2	8.7
その他	2	8.7
オンブズ組織	1	4.3
学校法人	0	0.0
法務局	0	0.0
合計	23	100

5-2. 事務局など運営主体

	度数	%
市区町村教育委員会	9	39.1
市区町村	4	17.4
その他	3	13.0
都道府県教育委員会	2	8.7
都道府県	2	8.7
弁護士会	2	8.7
オンブズ組織	1	4.3
合計	23	100

Q6. 設置要綱について

6-1. 内容を知っているか 不明=2

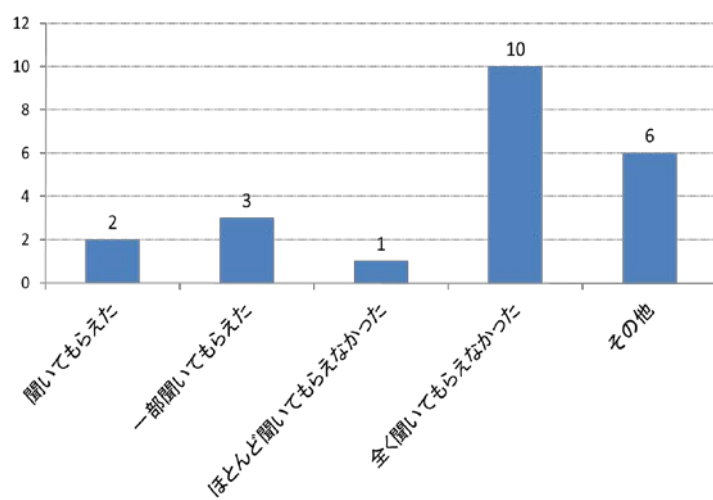


6-2. a. 紙でもらっている、b. 知っているが口頭で説明の場合、設置目的はどのような内容が書いてあったか。(複数回答)

	応答数	
	度数	%
事実の解明	10	27.0%
再発防止に関する提言	9	24.3%
学校及び教育員会の事後対応の問題点を明らかにする	5	13.5%
事件事故調査や報告書の検証	4	10.8%
その他委員会が必要と認めること	3	8.1%
死亡との因果関係を明らかにする	3	8.1%
死亡原因の考察	2	5.4%
その他	1	2.7%
合計	37	100.0%

Q7. 調査・検証委員の選出について

7-1. 委員の選出について、被災者側の要望は聞いてもらえたか 不明=1



Q8. 調査委員について

8-1. 調査委員を選出するにあたって、被災者側が重視するもの(複数回答)

	応答数	
	度数	%
事実の解明	10	27.0%
再発防止に関する提言	9	24.3%
学校及び教育委員会の事後対応の問題点を明らかにする	5	13.5%
事件事故調査や報告書の検証	4	10.8%
その他委員会が必要と認めること	3	8.1%
死亡との因果関係を明らかにする	3	8.1%
死亡原因の考察	2	5.4%
その他	1	2.7%
合計	37	100.0%

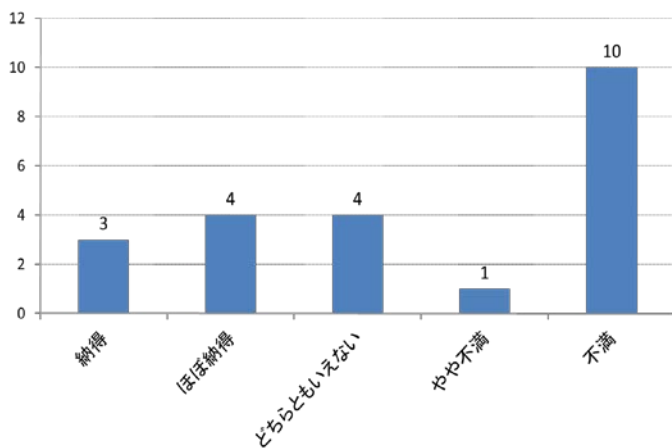
8-2. 上記のうち、とくに重視するもの (3つ以内で回答)

事実の解明

死亡原因の考察

学校及び教育委員会の事後対応の問題点を明らかにする

8-3. 当該調査委員会の委員選出については、どの程度納得しているか。不明=1

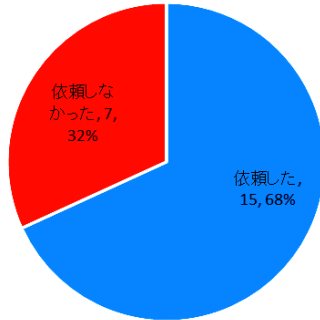


8-4. 調査・検証委員についての感想や意見(自由記述)

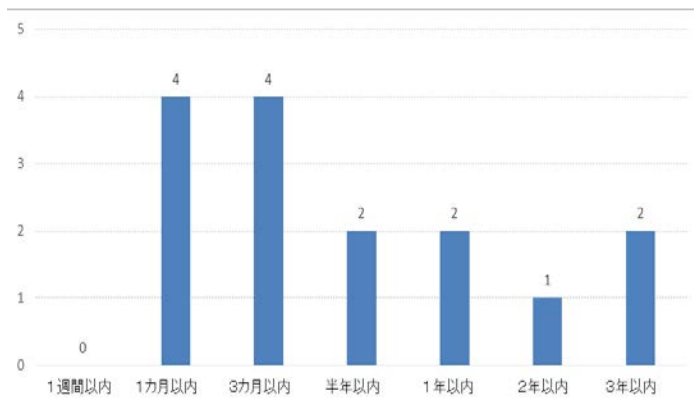
別紙

Q9. 被災者側の代理人弁護士について

9-1. 被災後、代理人弁護士を依頼したか 不明 = 1



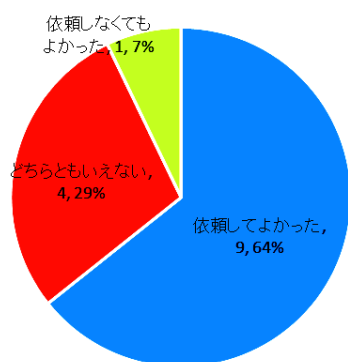
9-2. a. 依頼した場合、被災からの時期



9-3. a. 依頼した場合、その理由（複数回答）

	応答数	
	度数	%
民事裁判を考えていたから	8	25.8%
学校や教育委員会との交渉が進まないから	7	22.6%
刑事告訴を考えていたから	5	16.1%
情報開示請求をしたかったから	5	16.1%
その他	3	9.7%
周囲から勧められたから	2	6.5%
報道被害から自分や家族を守るため	1	3.2%
合計	31	100.0%

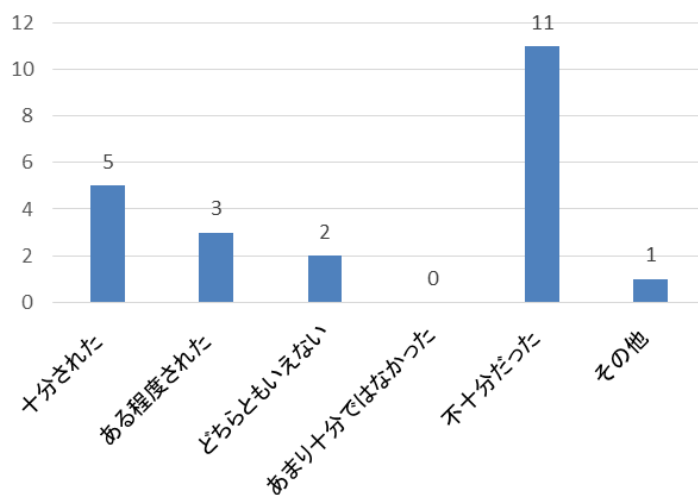
9-4. a. 依頼した場合、弁護士を依頼してよかったと思うか 不明=1



9-5. そう思う理由について (自由記述) 別紙

Q10. 調査・検証委員会への情報提供について

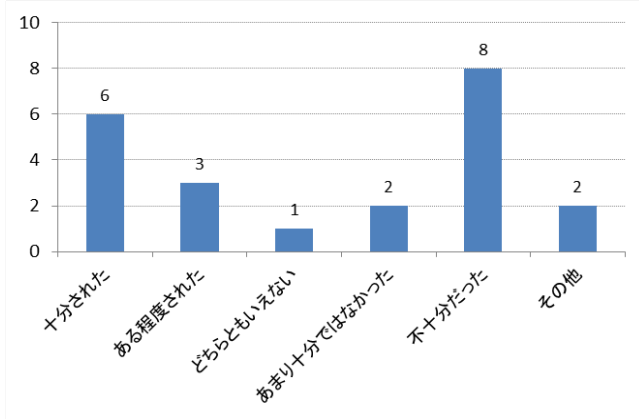
10-1. 当該事案についての情報提供は十分になされていたと思うか 不明=1



10-2. そう思う理由(自由記述) 別紙

Q11. 調査・検証委員会から被災者側への聞き取りについて

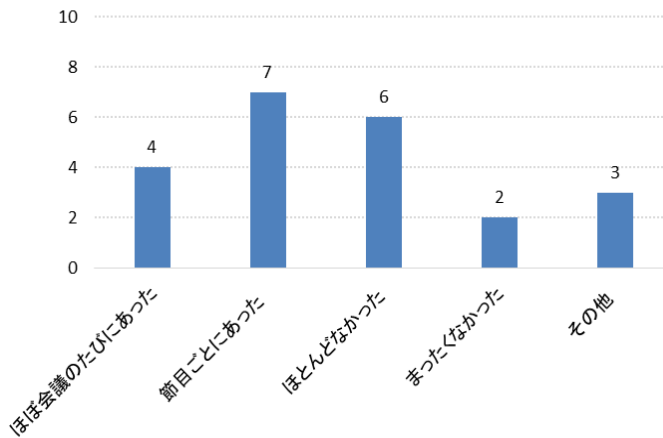
11-1. 委員会から、被災者側への聞き取りは十分にされたか。 不明＝1



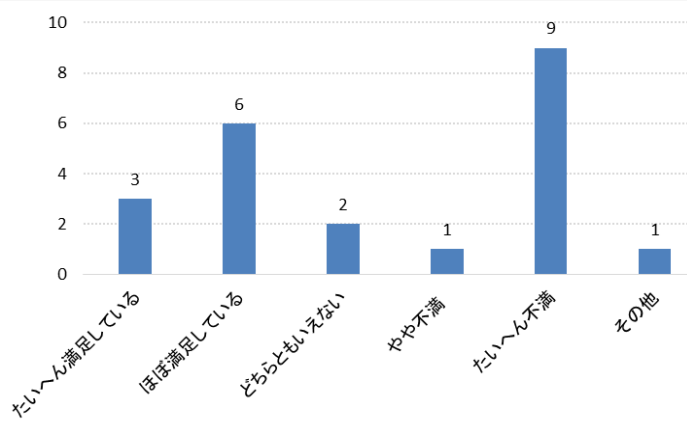
11-2. そう思う理由（自由記述）別紙

Q12. 委員会で話し合われた内容や進捗状況の報告について

12-1. 被災者側に報告はあったか 不明＝1

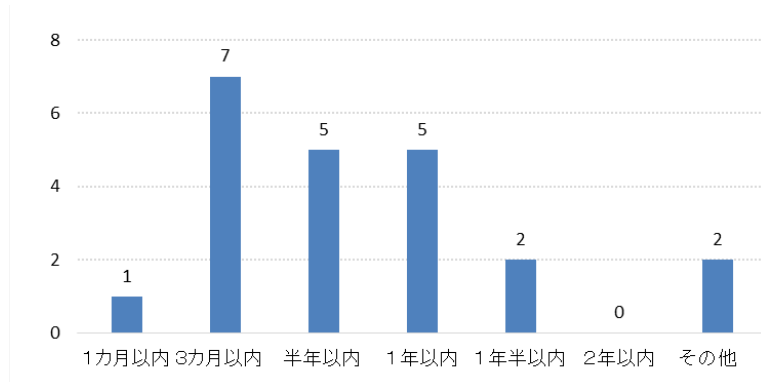


12-2. そのことについて、どう思うか。

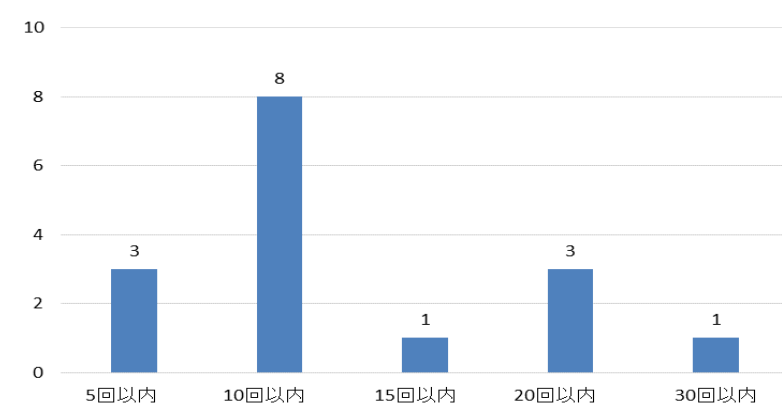


Q13. 調査・検証の期間について

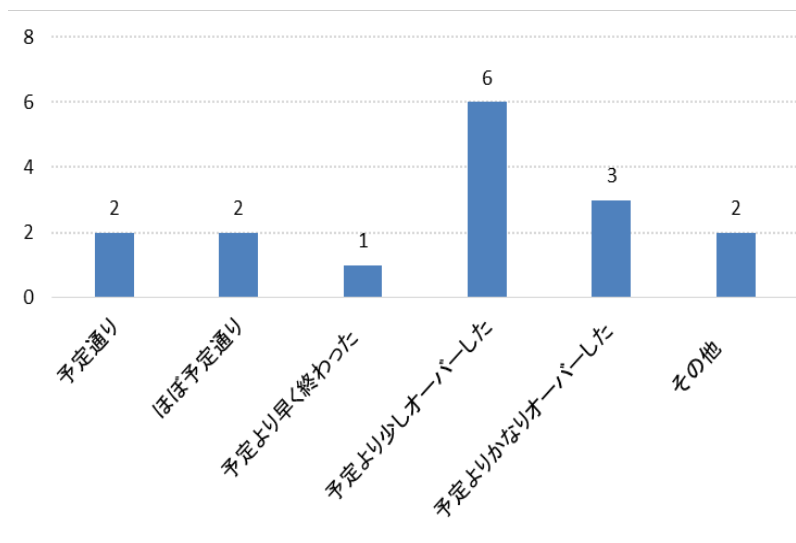
13-1. 調査・検証の始まりから終わりまで、どのくらいの期間を要したか 不明＝1



13-2. その間、どのくらいの回数、会議等が開催されたか。不明＝7

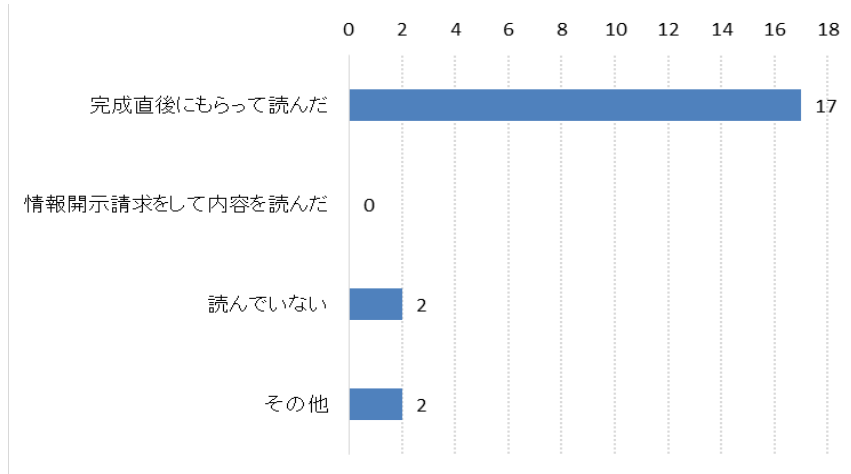


13-3. 調査・検証委員会の期間は、当初予定されていた通りだったか。不明＝7



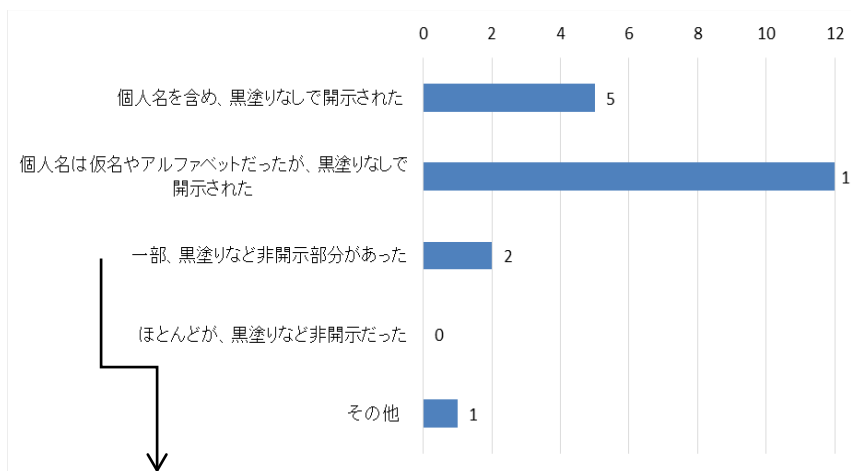
Q14. 調査報告書の開示について

14-1. 調査・検証委員会の報告書を読んだか。 不明＝2



14-2. c. 読んでいない人は、その理由 (自由記述) →14-5 へ

14-3. a. b. 報告書を読んだ場合、報告書の内容は、被災者側にどれくらい開示されたか。
不明＝3



14-4. c. 一部、黒塗りなど非開示部分があった、又は d. ほとんどが黒塗りなど非開示だった場合、全体に占める割合はどの程度だったか

黒塗り部分は20%以下 2

14-5. 調査・検証終了後、情報開示請求したもの（のべ）

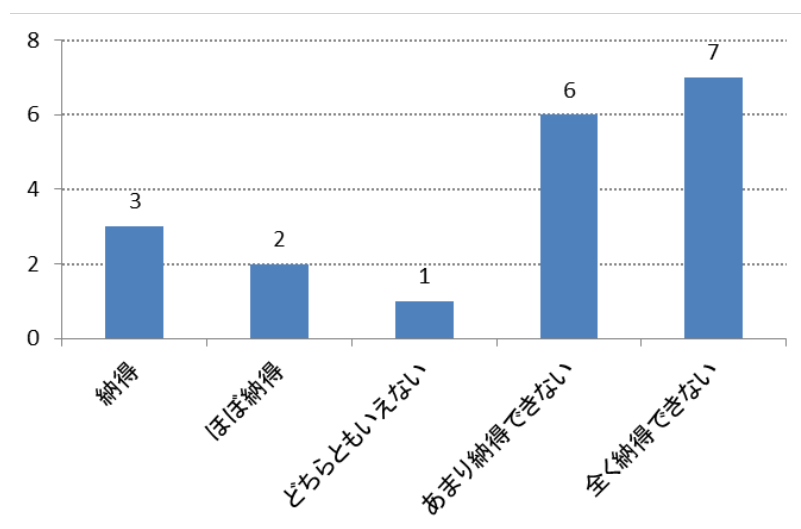
	非開示	開示	不明	合計
調査検証報告	1	4	3	8
委員会に提出された資料すべて	0	3	4	7
調査資料	1	5	1	7
合計	2	12	8	22

Q15. 調査報告書の内容について

15-1. 報告書は全部(資料等を含む)で何頁くらいだったか。 不明=2

	度数
1～5 ページ	1
11～30 ページ	3
31～50 ページ	3
51～80 ページ	4
81～100 ページ	2
101～150 ページ	1
151～200 ページ	1
201～300 ページ	2
301～400 ページ	1
501～700 ページ	1
その他	2
合計	21

15-2. 報告書の内容は、納得がいくようなものだったか。



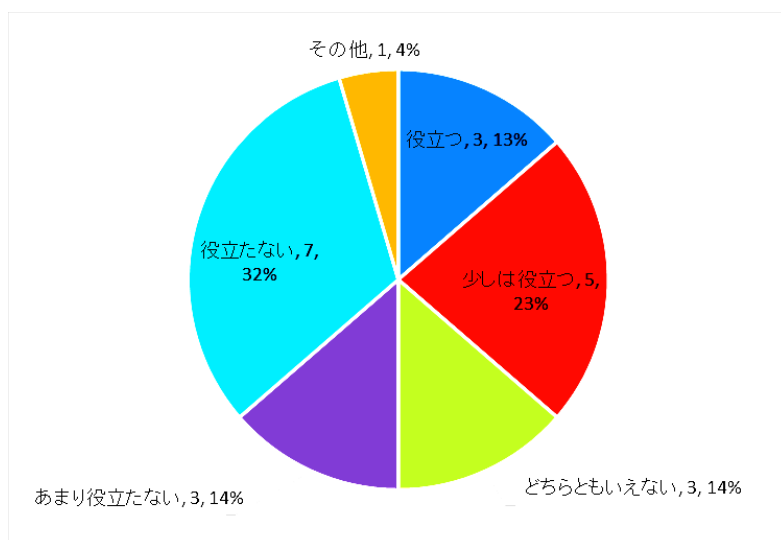
15-3. 報告書の内容で、納得のいった部分 (自由記述) 別紙参照

15-4. 報告書の内容で、納得のいかない部分 (自由記述) 別紙参照

15-5. 調査報告書は完了後、どのように活用されているか。(複数回答)

	応答数	
	度数	%
報道関係者に配布され、内容が広く知らされた	10	33.3%
ウェブサイトなどでほぼ全文見られるようになっている	7	23.3%
教職員研修等で活用されている	3	10.0%
とくに活用はされていない	3	10.0%
その他	3	10.0%
ウェブサイトなどで部分的に見られるようになっている	2	6.7%
不明	2	6.7%
合計	30	100.0%

15-6. 調査報告は、同種の事件事故の再発防止に役立つと思うか。不明=1



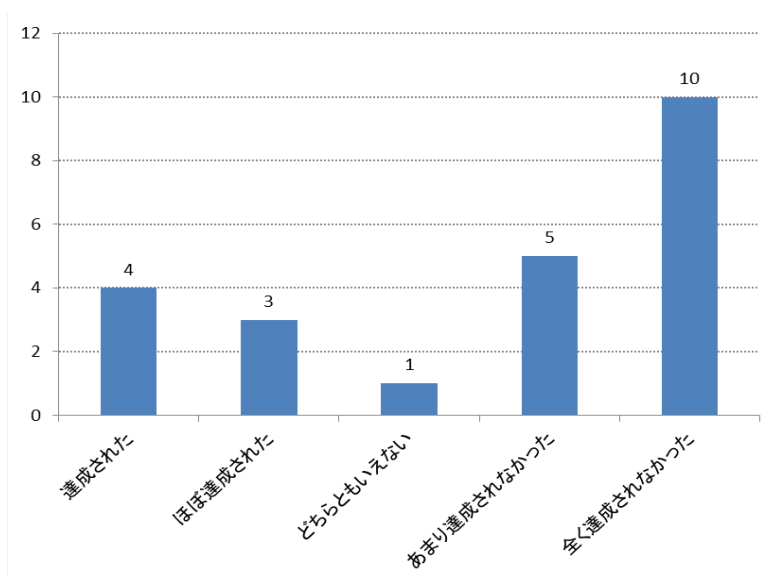
15-7. そう思う理由について (自由記述) 別紙

Q16. 調査・検証委員会全体について

16-1. 当初、望んでいたこと（複数回答）

	応答数	
	度数	%
わが子に何があったのか事実を知りたい	17	9.6%
事件事故が起きた背景や遠因として考えられることをすべて知りたい	17	9.6%
事件事故がなぜ起きたのか、直接的原因を知りたい	15	8.5%
事件事故がなぜ防げなかったのかを知りたい	15	8.5%
亡くなった子どもの名誉を回復したい	15	8.5%
事件事故の教訓を再発防止につなげたい	15	8.5%
事件事故時の詳しい状況を知りたい	13	7.3%
死亡との因果関係をはっきりさせたい	13	7.3%
学校等の管理者の責任を明らかにしたい	12	6.8%
学校や教育委員会、設置者の責任を明らかにしたい	11	6.2%
世の中に広く、当該事件事故のことを知ってほしい	10	5.6%
誰に責任があるのかを知りたい	10	5.6%
加害者や保護者の責任を明らかにしたい	8	4.5%
自分たち家族の名誉を回復したい	6	3.4%
合計	177	100.0%

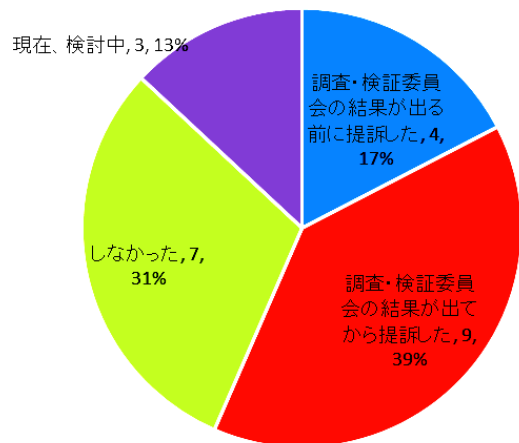
16-2. 調査・検証委員会に望んだことは達成されたか。



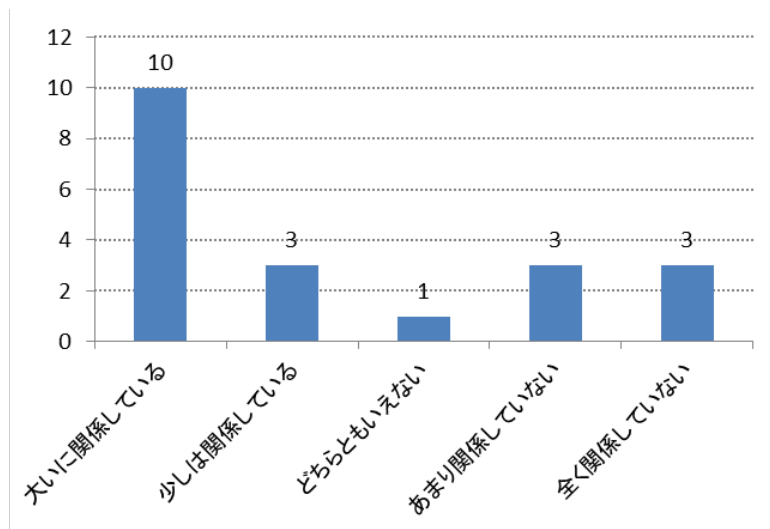
16-3. そう思う主な理由について（自由記述）別紙

Q17. 民事裁判について

17-1. 当該事故・事件について、民事裁判を起こしたか。



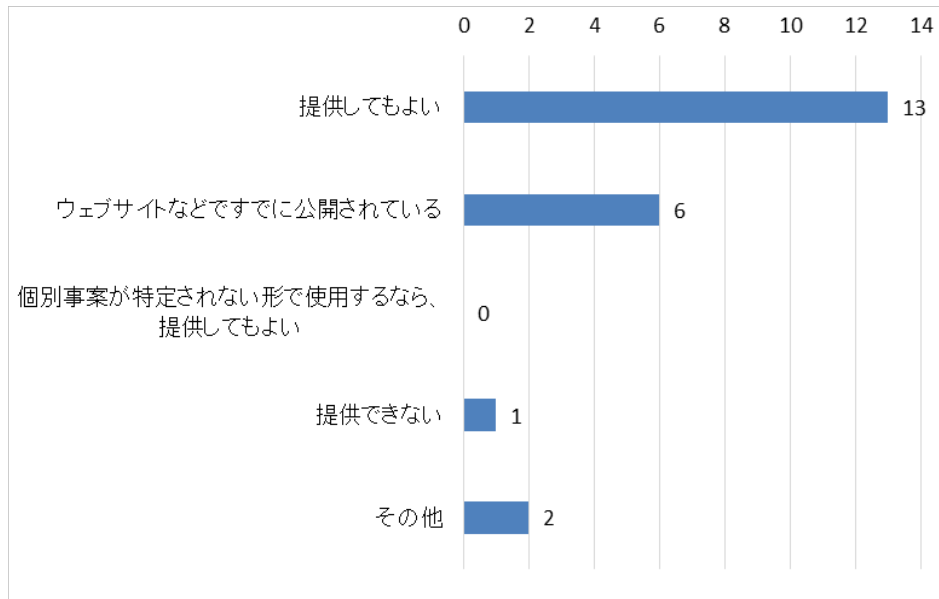
17-2. 提訴に、調査・検証委員会の設置の在り方や報告内容は関係しているか。不明＝3



17-3. 裁判をした・検討している・しなかった主な理由について (自由記述)
別紙参照

Q18. 今後の事件事故調査のあり方や、調査・検証委員会のあり方について、意見など
(自由記述) 別紙

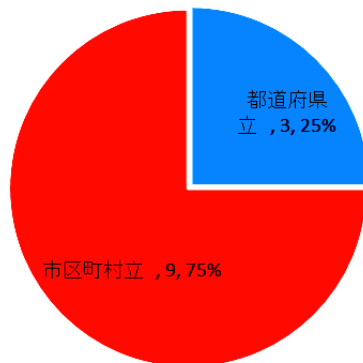
Q19. 今後の調査研究のために当該事案の報告書を提供することは可能か。不明= 1



【委員側の結果】 N=12

Q1. 事件事故当時、被災者が所属していた学校等について

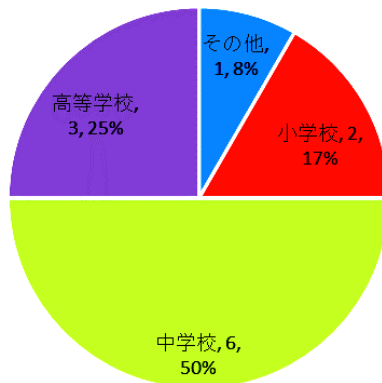
1-1. 管理責任者



1-2. 当該事件事故が発生した学校の所在地（都道府県名）

回収件数が少なく、事案が特定されるおそれがあるため、省略。

1-3. 学校等の種別

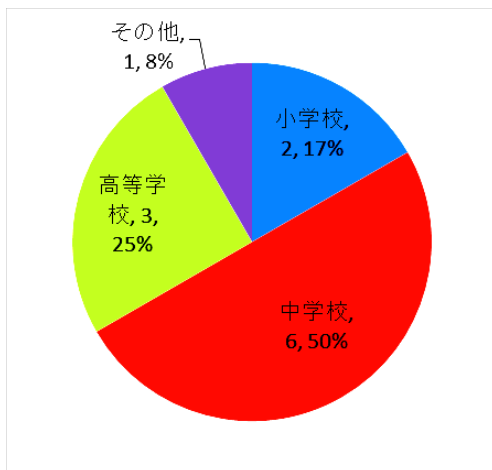


Q2. 被害時期について、西暦年月と被災者の学年・年齢・性別

2-1. 主な被災時期 平均 2008 年

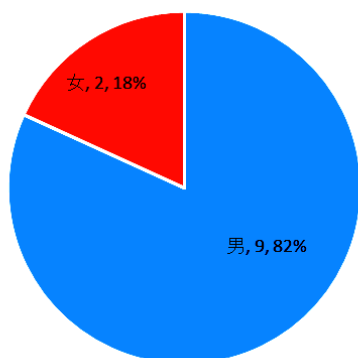
	度数	%		度数	%
1992	1	8.3	1	1	8.3
1999	1	8.3	3	1	8.3
2008	1	8.3	5	1	8.3
2010	3	25.0	6	3	25.0
2011	2	16.7	7	3	25.0
2012	2	16.7	9	1	8.3
2013	2	16.7	10	2	16.7
合計	12	100.0	合計	12	100.0

2-2. 学年・年齢・性別 学校別



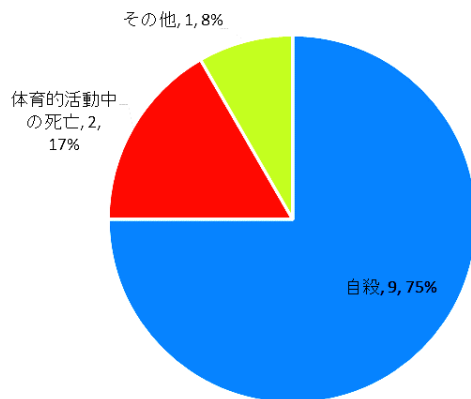
平均年齢 13.6 歳 (range:6-17)

性別 不明=1

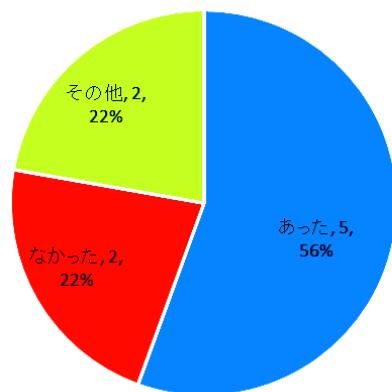


Q3. 調査・検証の対象になった被災状況について

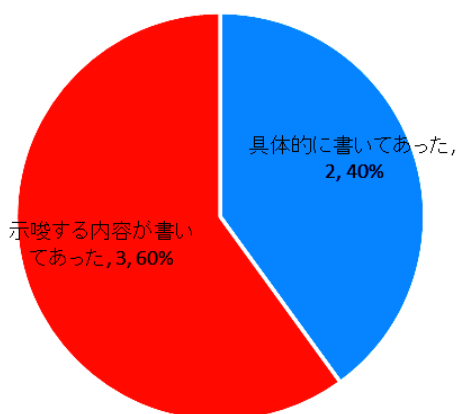
3-1. 主たるもの



3-2. a. 自殺、自殺未遂の場合、遺書に類するもの(メモ・メールを含む)はあったか。 不明 = 3



3-3. a. 遺書等があった場合、自殺(未遂)の原因について書いてあったか。



3-4. 遺書等に原因として書いてあった(a. b.)のはどのような内容だったか。
(該当者は複数回答可)

	応答数	
	N	%
いじめ	3	42.9%
友人関係の悩み	1	14.3%
教師のこと	1	14.3%
その他	1	14.3%
プライバシーに関することなので書けない	1	14.3%
合計	7	100.0%

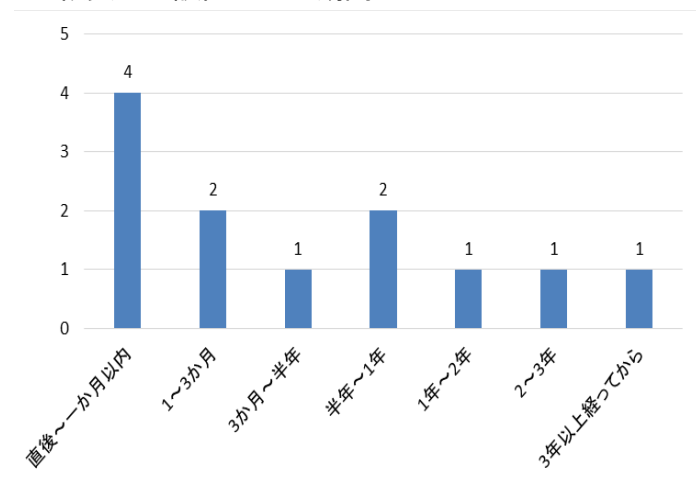
Q4. 調査・検証委員会の設置について

4-1. 設置された委員会の名称 省略

4-2. 設置時期 (常設の場合は当該調査開始時期)
平均 2010 年

	度数	%
2000	1	8.3
2002	1	8.3
2008	1	8.3
2010	2	16.7
2012	2	16.7
2013	5	41.7
合計	12	100.0

4-3. 被災から設置までの期間

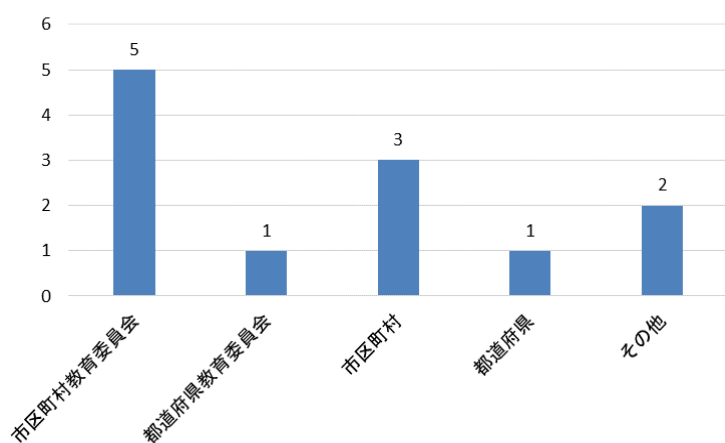


4-4 当該調査・検証は誰の要望によるものか。(複数回答可)

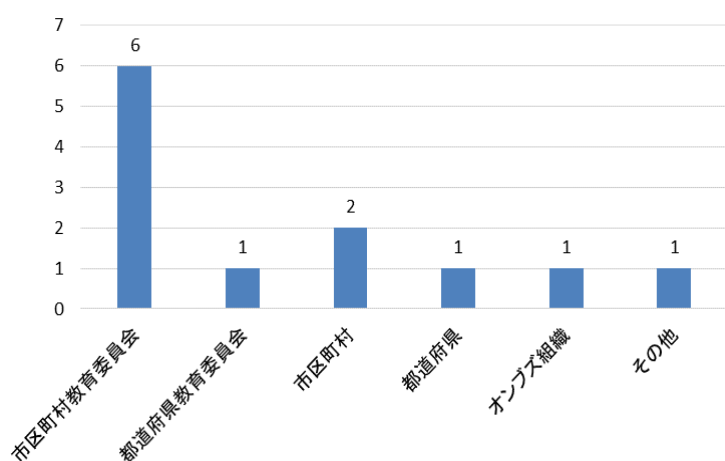
	応答数	
	度数	%
被災者側	10	62.5%
学校・教委	4	25.0%
学校の設置者	1	6.3%
自治体の長	1	6.3%
合計	16	100.0

Q5. 委員会の設置主体と運営主体について

5-1. 設置主体



5-2. 事務などの運営主体

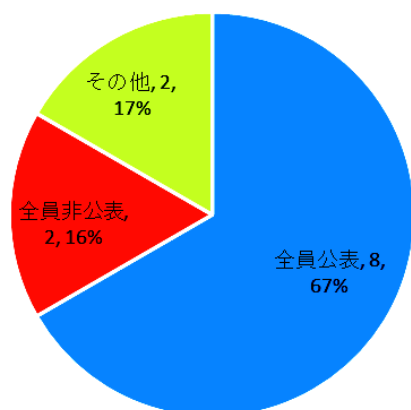


Q6. 調査・検証委員の選出について

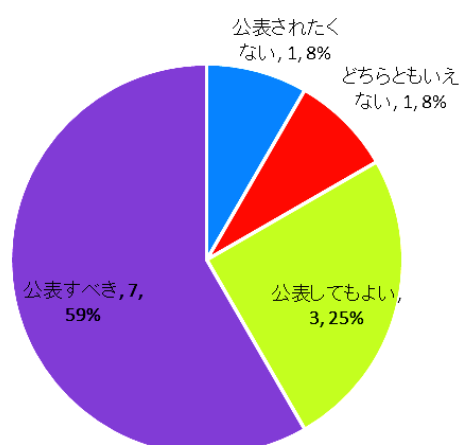
6-1. 委員に選出された経緯(複数回答可)

	応答数	
	度数	%
調査・検証委員会設置者からの推薦	4	26.7%
被災者側からの推薦	4	26.7%
その他	3	20.0%
職能団体（弁護士会・臨床心理士会など）からの推薦	2	13.3%
調査・検証委員会の実績を買われた	2	13.3%
合計	15	100.0%

6-2. 調査委員の氏名は、公表されたか。



6-3. 氏名の公表についてどう思うか。



6-4. そう思う理由について（自由記述） 別紙参照

Q7. 調査委員について

7-1. 調査をするうえで、重視したもの（複数回答）

	応答数	
	度数	%
事実を積み重ねること	11	14.3%
遺族の気持ち	9	11.7%
予断を持たないこと	9	11.7%
結果に影響を与えた可能性のあるものをできるだけ広く調査対象にする	8	10.4%
被災者の気持ち	7	9.1%
委員会設置の目的	7	9.1%
中立性を保つこと	6	7.8%
報告書が被災者遺族に与える影響	5	6.5%
児童生徒全体の気持ち	4	5.2%
報告書が児童生徒に与える影響	4	5.2%
報告書が学校に与える影響	3	3.9%
教師の気持ち	2	2.6%
加害行為をした児童生徒やその保護者の気持ち	1	1.3%
その他	1	1.3%
合計	77	100.0%

7-2. そのうち、とくに重視したものの上位3つ

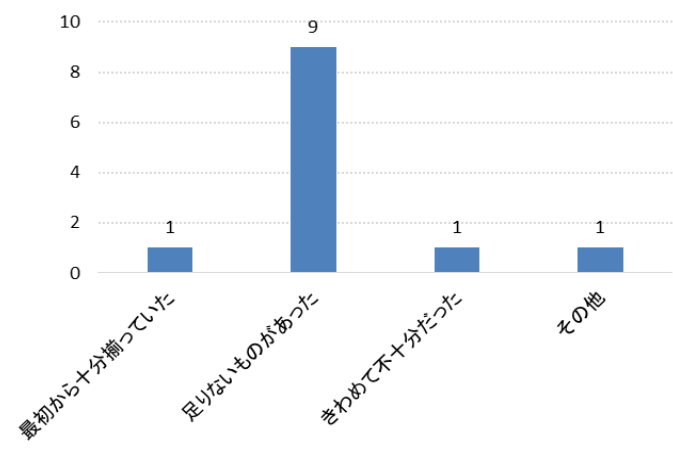
事実を積み重ねること

遺族の気持ち

予断を持たないこと

Q8. 調査・検証委員会に提供された資料について

8-1. 調査・検証委員会に提供された資料は、最初から十分に揃っていたか。



8-2. b. c. 足りない資料について、請求したか。

請求した 10

8-3. b. 請求しなかった理由について (自由記述)

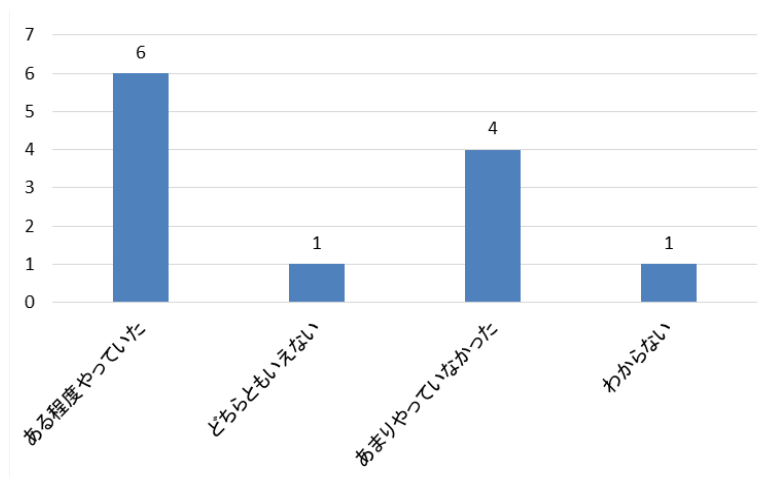
記述なし

8-4. a. 請求した結果どうなったか。(複数回答)

	応答数	
	度数	%
素直に出してくれた	7	53.8%
最初から作成していない、廃棄したと言われたものがあった	3	23.1%
その他	2	15.4%
当初は出し渋っていたが、最終的に出してくれた	1	7.7%
合計	13	100.0%

Q9. 学校や教育委員会の調査・検証委員会立ち上げ前の調査について

9-1. 必要な調査はなされていたと思うか。



9-2. そう思う理由について（自由記述） 別紙参照

Q10. 調査・検証委員会独自の調査について

10-1. 調査・検証委員会独自で、どのような調査を行ったか。（複数回答）

	応答数	
	度数	%
保育士・教職員等への聞き取り調査	10	15.6%
被災者側への聞き取り調査	9	14.1%
児童生徒へのアンケート調査	6	9.4%
児童生徒への聞き取り調査	8	12.5%
その他の関係者への聞き取り調査	5	7.8%
その他の関係者への聞き取り調査	5	7.8%
児童生徒の保護者への聞き取り調査	4	6.3%
教育委員会職員等への聞き取り調査	4	6.3%
専門家への聞き取り	4	6.3%
スクールカウンセラーへの聞き取り調査	3	4.7%
現地・現場調査	3	4.7%
保育士・教職員等へのアンケート調査	2	3.1%
児童生徒の保護者へのアンケート調査	2	3.1%
その他	2	3.1%
地域住民への聞き取り調査	1	1.6%
再現検証調査	1	1.6%
合計	64	100.0%

10-2. 調査・検証をするうえで、主に参考になったもの（複数回答）

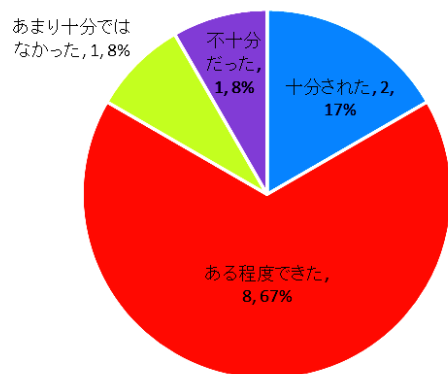
	応答数	
	度数	%
事件事故後に学校・教委が行った児童生徒の聞き取り	8	9.9%
調査委員会が行った遺族の聞き取り	7	8.6%
調査委員会が行った教職員の聞き取り	7	8.6%
事件事故後に学校・教委が行った児童生徒へのアンケート調査	6	7.4%
調査委員会が行った児童生徒の聞き取り	6	7.4%
事件事故後に学校・教委が行った教職員の聞き取り	5	6.2%
被災児童生徒が書いていた日記やメモ、携帯電話の記録	5	6.2%
生徒指導記録簿	4	4.9%
被災児童生徒の遺書	4	4.9%
調査委員会が行った教育委員会職員の聞き取り	4	4.9%
その他	4	4.9%
事件事故後に学校・教委が行った被災者側への聞き取り	3	3.7%
学校が作成した事故報告書	3	3.7%
職員会議録	3	3.7%
現地調査や再現検証	3	3.7%
被災児童生徒が書いていた授業の作文	2	2.5%
学校評価アンケート	1	1.2%
その他の会議録	1	1.2%
部活動の記録簿	1	1.2%
被災児童生徒と担任教師との交換日記	1	1.2%
被災児童生徒の保護者と学校との連絡帳や手紙	1	1.2%
調査委員会が行ったスクールカウンセラーへの聞き取り	1	1.2%
事件事故以前のアンケート調査	1	1.2%
合計	81	100.0%

10-3. その内、特に参考になったもの上位5つ

学校が行った児童生徒へのアンケート調査
学校が行った児童生徒への聞き取り調査
被災児童生徒の日記やメモ
調査委が行った遺族聞き取り
調査委が行った教職員聞き取り

Q11. 調査・検証委員会の情報収集について

11-1. 当該事案について、情報収集は十分にできたと思うか。



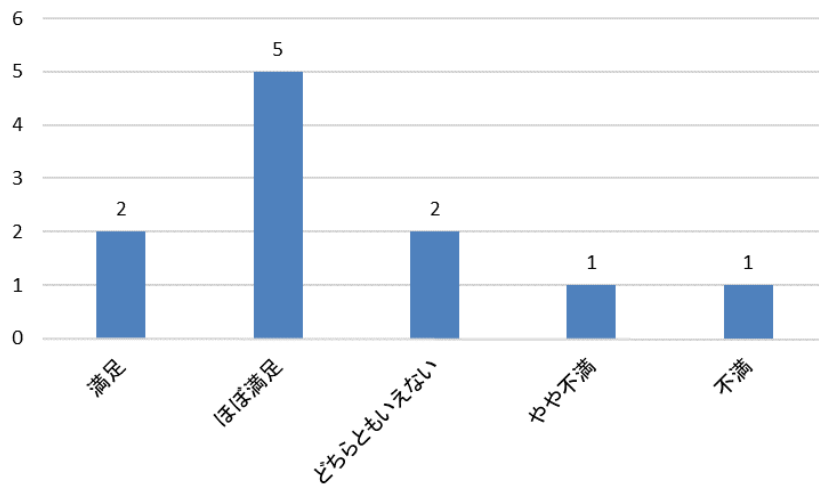
11-2. 当該事案について、情報収集を困難にしたものは何か (複数回答)

	応答数	
	度数	%
児童生徒の拒否	5	19.2%
時間の経過による記憶の薄れ	4	15.4%
その他	4	15.4%
児童生徒の保護者の拒否	3	11.5%
困難なことはなかった	2	7.7%
必要書類等が廃棄されていた	1	3.8%
調査・検証委員の人手不足	1	3.8%
調査・検証委員の知識不足	1	3.8%
調査・検証委員会の時間的制限	1	3.8%
関与の深い教職員の拒否や隠ぺい	1	3.8%
合計	26	100.0%

11-3. 調査・検証に関わる書類や情報の取り扱いについて、気になることや提案など
(自由記述) 別紙

Q12. 委員会の事務局について

12-1. 事務局に対する評価 不明=1

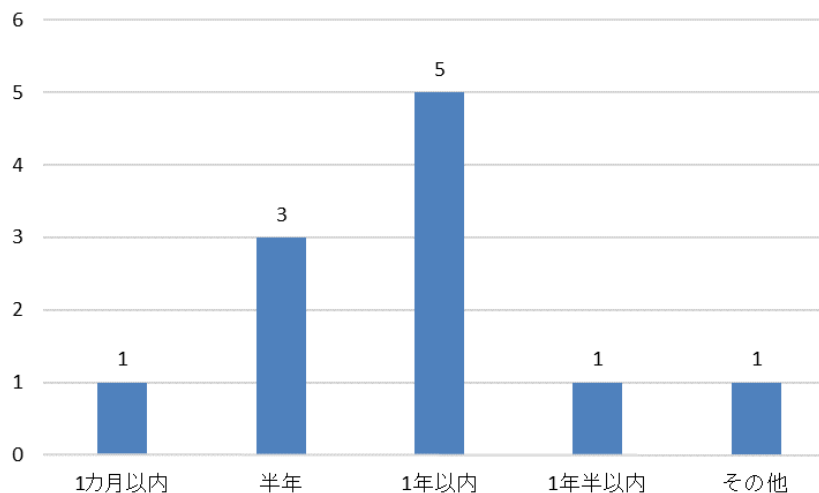


12-2. そう思う理由について (自由記述) 別紙

12-3. 調査・検証委員会の事務局の在り方について、意見等 (自由記述) 別紙

Q13. 調査・検証の期間について

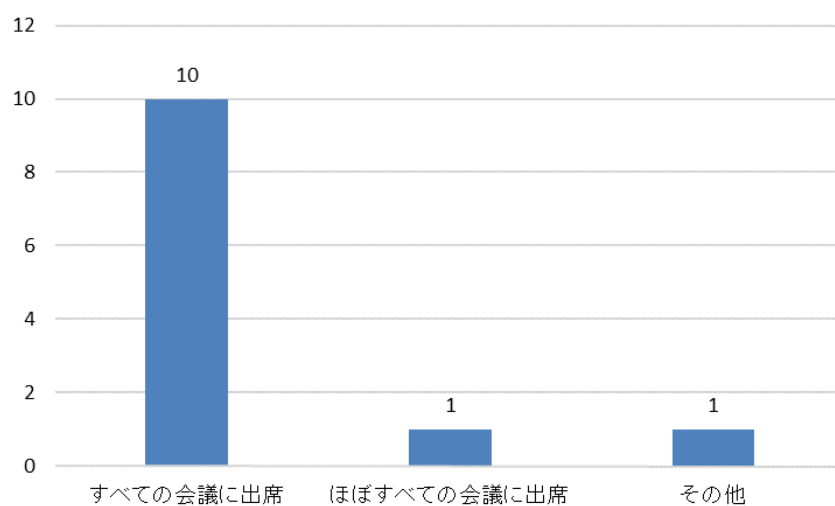
13-1. 調査・検証の始まりから終わりまでの期間 不明=1



13-2. その間の会議等開催回数 不明= 2

	度数
5回以内	1
10回以内	1
15回以内	1
20回以内	2
30回以内	1
50回以内	2
50回以上	1
その他	1
合計	10

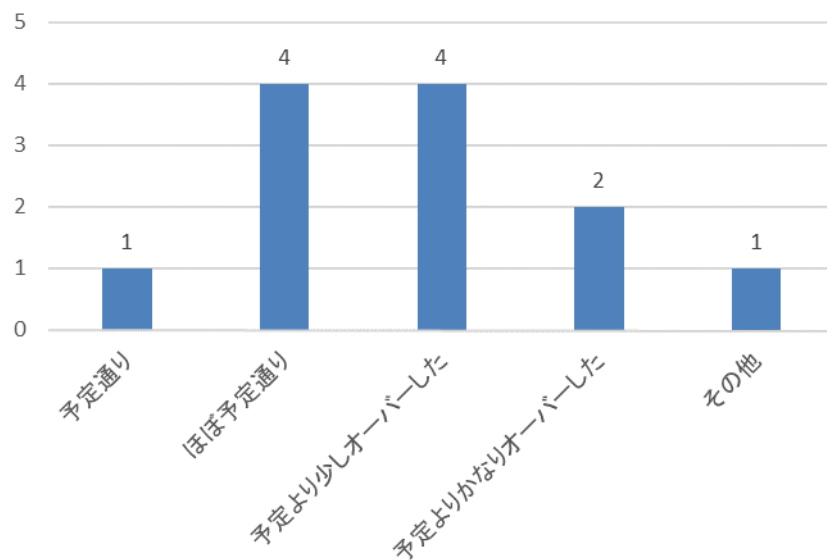
13-3. 会議等の出席状況



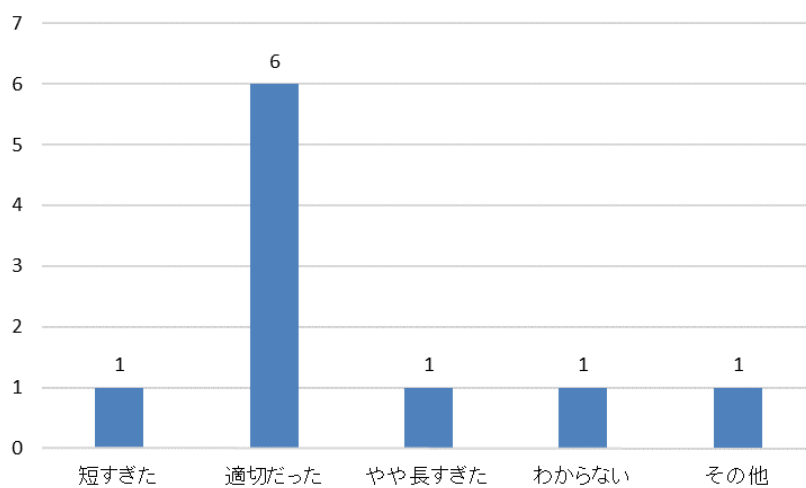
13-4. 会議等を欠席した理由 (複数回答可)

	応答数	
	度数	%
どうしても抜けられない用事があった	1	33.3%
役割分担があり、出ないでよい会議があった	1	33.3%
委員全員の予定が合わなかった	1	33.3%
合計	3	100.0%

13-5. 調査・検証委員会の期間は、当初予定されていた通りだったか。



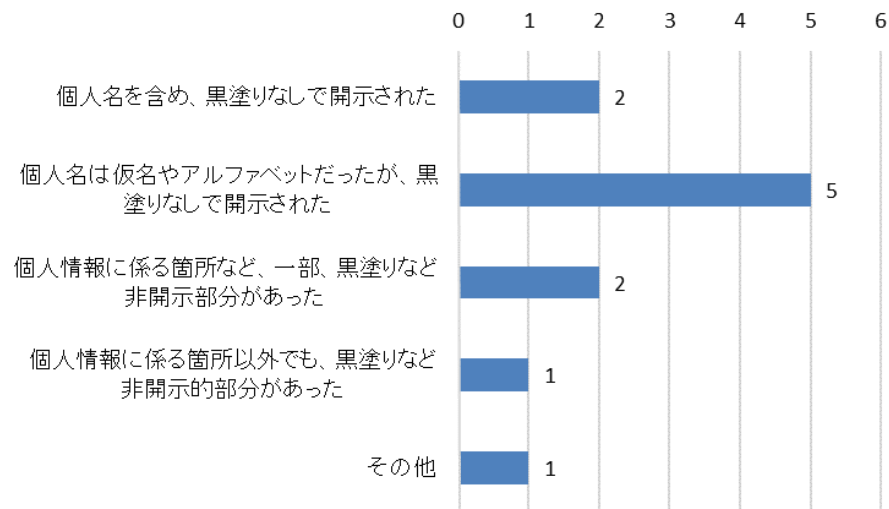
13-6. 調査・検証の期間をどう思うか。不明=2



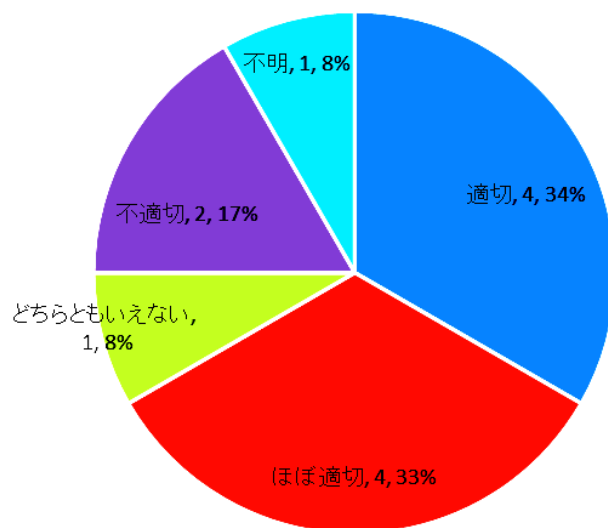
13-7. そう思う理由について (自由記述)

Q14. 調査報告書の開示について

14-1. 報告書の内容は、被災者遺族にどれくらい開示されていたか。不明= 1



14-2. 被災者遺族に対する情報開示の在り方についてどう思うか。



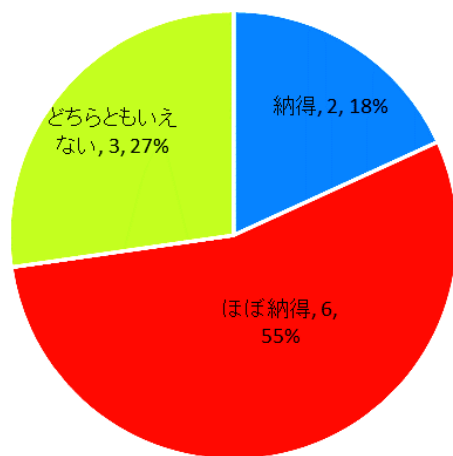
14-3. そう思う理由（自由記述）別紙

Q15. 調査報告書の内容について

15-1. 報告書のページ数 不明=1

	度数	%
11~30ページ	1	9.1
31~50ページ	2	18.2
51~80ページ	3	27.3
81~100ページ	1	9.1
101~150ページ	1	9.1
151~200ページ	1	9.1
201~300ページ	1	9.1
301~400ページ	1	9.1
合計	11	100.0

15-2. 報告書の内容に対する納得度 不明=1



15-3. 報告書の内容で、納得のいった部分 (自由記述) 別紙

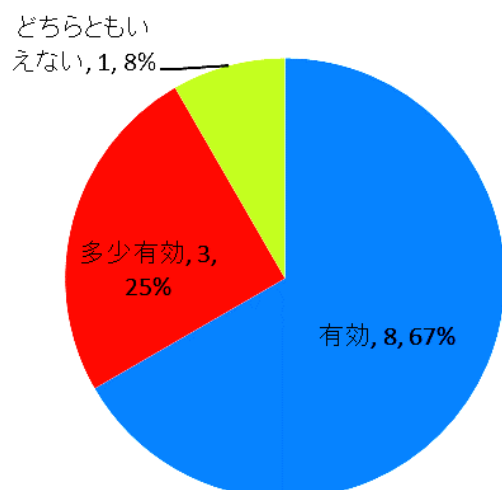
15-4. 報告書の内容で、納得のいかない部分 (自由記述) 別紙

15-5. 調査報告書完了後の活用状況（複数回答）

	応答数	
	度数	%
報道関係者に配布され、内容が広く知らされた	6	35.3%
教職員研修等で活用されている	4	23.5%
ウェブサイトなどでほぼ全文見られるようになっている	3	17.6%
ウェブサイトなどで部分的に見られるようになっている	3	17.6%
とくに活用はされていない	1	5.9%
合計	17	100.0%

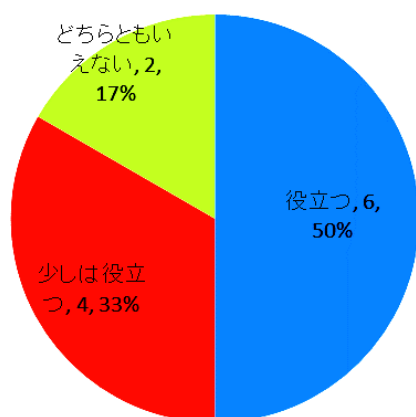
Q16. 調査・検証委員会の仕組みについて

16-1. 事実解明において、有効だと思うか。



16-2. そう思う理由について（自由記述） 別紙

16-3. 当該調査・検証は、同種の事件事故の再発防止に役立つと思うか。



16-4. そう思う理由について(自由記述) 別紙参照

Q17. 調査・検証委員会全体について

17-1. 調査委員を引き受けるうえで、障害になったもの (複数回答)

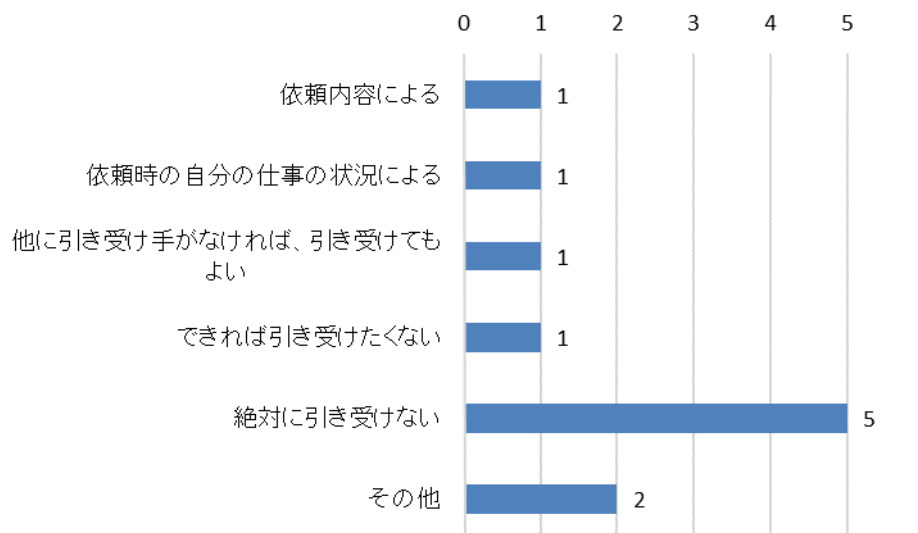
	応答数	
	度数	%
何も障害はなかった	5	22.7%
委員間で意見の相違を埋めるのに苦労した	4	18.2%
本業が多忙で、時間を取るのに苦労した	3	13.6%
書類が多く読むのが大変だった	3	13.6%
組織や人間関係のしがらみで苦労した	2	9.1%
学校の仕組みについてあまり知識がなかった	1	4.5%
収入減になった	1	4.5%
会議する場所までの移動に時間がとられた	1	4.5%
メディアの対応に追われた	1	4.5%
その他	1	4.5%
合計	22	100.0%

17-2. 自宅や職場から調査・検証委員会の会議の場所までの所要時間 (複数回答)
平均 1時間40分

	応答数	
	度数	%
飛行機	1	6.7
新幹線	2	13.3
在来線	7	46.7
バス	1	6.7
タクシー	1	6.7
自家用車	3	20.0
合計	15	100.0

17-3. 委員への待遇全般について、意見など(自由回答) 別紙

17-4. 再び調査委員を依頼されたとしたら、引き受けたいと思うか。不明=1



17-5. そう思う主な理由について (自由記述) 別紙

Q18. 今後の事件事故調査のあり方や、調査・検証委員会のあり方について、意見など(自由記述) 別紙

Q19. 今後の調査・研究のために、当該事案の報告書提供は可能か。

